

## 【シリーズ】映画にも描かれた地方創生、「美波町モデル」とは

平成26年に施行された「まち・ひと・しごと創生法」を踏まえ、平成27年度に5カ年計画として策定された「美波ふるさと創造戦略」も本年度、最終年をむかえます。

「美波ふるさと創造戦略」はこの町にどんな変化をもたらしたのか。また、映画を機にさらに注目を集めている美波町の地方創生とは何なのか。

サテライトオフィス第1号の進出からの7年を振り返り、「美波町モデル」を解き明かしていくシリーズです。

### ◆ Vol.1 始まりは採用難。追い風は地デジ化。

「波乗りオフィスへようこそ」は、関口智宏さん演じる主人公・徳永の苦悩から物語が始まります。一極集中、地方からどんどん人が流れ込んでくる東京で、人が集められない。徳永が営むITベンチャー企業は着々と業績を伸ばしてきましたが、増える仕事に対応出来る人材の確保が追いつかない。採用しようにも優秀な技術者はより条件の良い大手企業に流れ、小さな徳永の会社など見向きもされない、採用難という状況に陥ります。



©ポンコツ商会

美波町は、3月に戎野朗生建築設計事務所(本社・大阪府)、4月に株式会社びやまる(本社・東京都)が新たにサテライトオフィスを開設し、現在19社。2017年8月から継続している進出数県内最多はもちろんですが、映画でも描かれていたサテライトオフィスと地域との関係が非常に特徴的だと注目されています。 <つづく>

映画のモデルとなり、劇中にも徳永が経営する会社として実名で登場するサイファー・テック株式会社は、このような窮地を脱すべく、2012年5月、美波町初となるサテライトオフィスを恵比須浜地区に開設。タイトルにも使われたサーフィンをはじめ、趣味と仕事(IT)を両立できるサテライトオフィスでの働き方、「半X半IT」を提唱することで多くの優秀な人材を集め、経営課題を解決することとなりました。

当時、徳島県はテレビ放送の地デジ化にともない、県内全域にケーブルテレビ網を整備。それは同時に他に類を見ないほどの広域高速ブロードバンド網となり、一躍「全国屈指の素晴らしいネット環境」として注目されることになったのです。

このことを強みに都市部のIT企業を中心としたサテライトオフィス誘致に取り組み始め、サイファー・テック株式会社もこのような流れに乗った中で進出を果たしたのです。

徳島県のサテライトオフィス誘致事業は現在も続き、2019年4月までに県内12市町村に64社が進出しています。

■デュアルスクール制度を使ってお盆やお正月以外のお孫さんの里帰りを実現しませんか？  
ご興味がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

株式会社あわせ内デュアルスクール事務局 ☎70-5831

制作：美波ふるさと創造広報チーム

